

平成29年度 施政方針

2月9日に開催された市議会本会議で、木山耕三市長が平成29年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。
※全文は市ホームページに掲載しています。

1. はじめに

平成28年を振り返りますと、スポーツが生み出す感動と笑顔を市民の皆さんと一緒に分かち合い、まちの一体感と誇りは、こうであると感じた、記憶に残る1年でした。

昨年8月のリオ・オリンピックで本市出身の金藤理絵選手が金メダルを獲得され、私はもちろん、大勢の市民の皆さんに夢と感動、そして誇りを与えていただきました。

10月には金藤選手の凱旋にあわせ、本市では7人目となります。市民栄誉賞を贈るとともに、祝賀パレードを開催し、約8千人の皆さんと一緒に、栄誉をたたえ、祝福と感謝の意を表すことができました。

また、「庄原市カーブ応援隊」を結成して12年、市民の皆さんがマツダスタジアムに駆けつけ、熱い声援を送り続け

た、広島東洋カープが25年ぶりに悲願のリーグ優勝を果たし、金藤選手同様にも、感動と元気をいただいたところでございます。

加えて、6年ぶりの開催となりました「大相撲庄原場所」では、大勢の皆さんが来場され、目の前で大相撲を見る貴重な機会に感謝の声をいただき、大盛況のうちに終了いたしました。関係者の皆さんに心よりお礼を申し上げます。

さて、平成25年4月に皆さんからのご支持・ご支援を頂戴し、合併後、2代目の庄原市長として市政のかじ取りを託され、はや4年の月日が流れようとしております。この間、多くの課題に直面しながらも、市政運営を推進できましたことは、市民の皆さんならびに議員各位のご理解とご支援のたまものであり、深く感謝申し上げます。

顧みますと、市民の皆さんとの対話に心掛け、要望やニーズの把握に努めながら、本市が抱えるさまざまな課題を

克服し、オール庄原による「夢の持てる活力ある庄原市」を築くため、「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」を柱とする「庄原いちばん」を掲げ、「やっぱり庄原がいちばんええよのお」と思える「まちづくり」に全力を注いでまいりました。

主な取り組みの成果といたしまして、比婆牛ブランドの復活、和牛TMRセンターの誘致、庄原産こだわり米のブランド力アップなど基幹産業の振興に加え、合併以降、懸案となっておりました「超高速情報通信網整備」につきましても、皆さんとの協議を重ね、最適な事業形

態を選択し、事業化に至ったところでございます。
また、第3子以降の保育料無料化や乳幼児等医療費助成の対象拡大など、安心して子どもを育てることへの経済的支援をはじめ、本市への移住定住を促進する総合的な施策を展開してまいりました。

本市の定住施策を利用した新規定住者の実績は、平成24年度の9世帯19人が、平成27年度で31世帯73人、平成28年度も30世帯70人が見込まれており徐々にはありますが、その成果が現れ始めたものと受け止めております。

さらに、広大な市域を有する本市の魅力と資源に光を集め、それぞれをつなぐことで、全域を輝かせるための「にぎわいづくり」と本市の一体感の醸成やプ

ロモーションを目的に、ヒバゴンとキョロやまくんを用いた、庄原いちばんロゴマークの作成なども進めてまいりました。

このほか、「比婆いざなみ街道物語」の一環で取り組みました、『日本誕生の女神伊邪那美(いざなみ)が眠る比婆の山』を発刊いたしましたところ、想定以上の好評を博し、伊邪那美神話の幅広いPRにつながり、大勢の観光客が訪れ、地域の皆さんから歓びの声をいただくなど、新たなにぎわい創出につながったところでございます。

これらの取り組みが実を結び、平成27年の本市への観光客数は287万5千人を超え、過去最高を記録いたしました。

こうした4年間の取り組みにより、手応えを感じている一方で、引き続き克



本解説社神野熊山比婆
『日本誕生の女神 伊邪那美が眠る比婆の山』を
那美が眠る比婆の山
那美が眠る比婆の山
那美が眠る比婆の山



庄原市PRロゴマークキャラクター「ヒバゴン」

2. 市政運営の基本方針

●「第2期長期総合計画」の着実な推進

ご案内のとおり、目指すべき、まちの姿・将来像に「美しく輝く里山共生都市」「みんなが、好き」と実感できる「しよらばら」を掲げ、重要な指標となります。平成37年の目標人口は、合計特殊出生率の上昇、社会増への転換を前提として国立社会保障・人口問題研究所の推計人口を約3%上回る「3万2700人以上」と設定しております。

平成27年度実施の国勢調査の結果、本市の人口は3万7千人で、合併後の10年間で6千人以上の減少となっており、人口問題研究所が推計した人口を300人以上上下回っていることから、改めて、この厳しい現実を受け止め、職員一丸となつて「第2期長期総合計画」に基づく

各施策を展開してまいります。

また、将来像の実現と目標人口達成には、市民の皆さん、議員の皆さん、本市出身者などの縁のある皆さんと意識・課題を共有した「まちづくり」が不可欠であることから、引き続き「オール庄原」体制を呼びかけ、総合的な取り組みを実行してまいります。

●「庄原いちばんづくり」を深化させる取り組み

市長就任以来「やっぱり庄原がいちばんええよのお」と思える「庄原いちばんづくり」の分野別政策・施策および事業を推進するため、最優先で取り組むべきものを取りまとめました「庄原いちばん基本計画」を策定し、事業推進に努めたことによりまして、多くの成果を紡ぎ出し、随所に手応えも感じているところでございます。

今後、本市の将来像を具現化し「ふるさと庄原」を未来へつなぐ「ため」には、「庄原いちばんづくり」をさらに深化させる必要があると考えております。

このような思いを胸に、「次代につながる庄原市」の実現を確かなものとするため、このたび新たな「庄原いちばんづくり」を策定いたしました。

なお、この分野別政策および施策に基づき、「選択と集中」の原則を踏まえ、地域の将来にインパクトを与える基幹施設整備事業のほか、今後の市政における新機軸となる事業を「重点事業」に位置



国営備北丘陵公園

ト端末」を導入し、その活用について実証研究を行います。

●にぎわいと活力のいちばん

▼人口ビジョンに基づく将来人口維持と地域課題解決への挑戦

結婚を希望する皆さんを支援するため、自己啓発や出会いの場の提供に努め、カップル誕生から成婚へ、さらには定住への期待を込めました。「しよばら縁結び事業」の充実に努めます。さらに、転入者の住宅取得・改修にかかる一部助成の拡充・継続に加え、定住支援員を全地域に配置するほか、空き家バンク事業の充実など、平成28年12月に策定いたしました「庄原市定住支援アクションプラン」を着実に推進してまいります。



ドローン活用啓発セミナーを開催

付け、取り組みを強化・促進してまいります。

●財政健全化への取り組み

平成17年3月の新市誕生と時を同じくして、国の進めた構造改革および三位一体改革により、新市の財政運営は危機的状況に陥りました。

このため「行政経営改革大綱」を柱として「持続可能な財政運営プラン」や「公債費負担適正化計画」を策定し、歳入確保と歳出削減に努めた結果、財政指標はまだまだ厳しい数値ではございますが、本市の財政構造は着実に好転している状況にございます。

しかしながら、普通交付税は、特例措置が終了となる平成32年度に約19億円減少する見込みであり、加えて、普通交

付税の算定に用いる国勢調査人口の減少に伴う、さらなる縮減も予測されております。

こうした背景により、直面する厳しい財政状況を克服し、行政サービスの継続的な提供、第2期長期総合計画や庄原いちばんづくりの着実な推進を図るため、あらゆる視点での歳入確保と歳出削減を念頭に、新たな「持続可能な財政運営プラン」を策定し、中長期を見通した財政基盤の構築に取り組みまいります。

3. 庄原いちばんづくりに

●地域産業のいちばん

▼新たな可能性で切り開く持続的な地域産業の構築

先般、誘致が決定いたしました和牛TMRセンターの円滑な運営を行なうため、コントラクター組織の立ち上げを支援し、和牛農家の経営安定化や地域資源の有効活用につなげてまいります。

▼地域資源を活用した新たな「食の魅力」ブランドデザイン

比婆牛のブランド力をより一層高めるため、地域団体商標を生かした市場開拓のほか、生産基盤の強化に対する支援を継続してまいります。

また、マツタケ山の環境整備に対する奨励制度を新設し、山林整備と特用林産物の生産増進を図るほか、遊休農地を活用したワイン用ブドウの栽培を目指して、県立広島大学へ本市に適した品種選

▼新たな『にぎわいの潮流』の創出

市民会館・庄原自治振興センターをはじめ、庄原市街地に点在する公共施設のあり方につきましては、関係部局の連携のもと、市民アンケートの実施など、調査検討を進めてまいります。

さらに、市民の皆さんなどのご意見を反映させるための検討委員会の設置など、多角的な視点から将来を見通し、市街地の公共施設のあり方を整理し、平成30年度には、「市街地公共施設再編構想」をお示しする予定としております。

また、全国的にも稀な社会実験として、「国営備北丘陵公園北口エリア」の一部に、入園料が不要となる交流ゾーンを設置し、平成29年夏のオープンに向け、国や関係団体と協議会を設置し議論を進めているところでございます。

協議が整いますと、備北丘陵公園に訪れる年間約50万人の来園者に、本市の魅力や魅力を伝えることが可能となることから、市街地のにぎわいや市内全域の観光地などへの誘導に最善を尽くしてまいります。

▼多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築

比婆いちばなみ街道物語推進事業では、庄原観光いちばん協議会に部会を設置し、街道沿線で市民の皆さんや団体が連携する取り組みや、街道の認知度を上げるシンポライトイベントを開催し、沿線地域の活性化を促進してまいります。

また、花と緑のまちづくり推進事業といたしまして「国営備北丘陵公園」とや

定の研究をお願いすることとしております。

さらに、有害鳥獣対策で捕獲したイノシシなどの処理施設を整備し、捕獲促進に加え、ジビエやペットフードとしての有効活用も進めてまいります。

▼「技術革新による産業モデルの構築と雇用基盤の確立」

「地方創生加速化交付金」を活用し取り組みしております。ドローン活用推進事業を継続し、操縦講習会やシンポジウムなど、新たな視点による地域経済の活性化に努めてまいります。

●暮らしの安心のいちばん

▼安心を実感できる子育て環境の整備

本市の子育て世代に、大きな安心感をもたらす環境を構築する「こども未来広場」として、小児科診療所と病児病後児保育施設を早期に整備してまいります。

なお、放課後児童クラブとひだまり広場につきましては、今後、保護者や関係者の皆さんとの協議を重ね、最適な形態を総合的に判断してまいりたいと考えております。

▼高齢者の生活に対応するコンパクトな基盤の整備

比和地域に高齢者冬期安心住宅を整備するとともに、新たな整備地域につきましても調査・検討してまいります。

▼安心安全で快適な生活基盤の確保

超高速情報通信網整備事業の着実な推進により、平成30年度には市内全域で



庄原さとやまオープンガーデン

まオープンガーデン、豊富な山野草など、本市が誇る「花と緑」の観光資源を連携させ、周遊観光の促進や一体的なPR活動をを行うことで、「花と緑のまち・庄原」の認知度を高めるとともに、新たな「花街道」構想を描いてまいりたいと考えております。

4. おわりに

冒頭にも触れましたとおり、これまで4年間の「庄原いちばんづくり」の取り組みにより、徐々にではありますが、その成果が現れはじめております。こうした成果をより一層確かなものにするため、「新たな庄原いちばんづくり」のもとと



西城町に整備された高齢者冬期安心住宅

超高速インターネットと住民告知放送の利用が可能となる予定でございます。

また、新焼却処理施設整備事業につきましては、候補地選定検討委員会より意見書が提出されたことを受けまして、現在、地元説明などの取り組みを行っておりますが、引き続き、市民・関係者の皆さんへの丁寧な説明に努め、ご理解をいただきながら事業を進めてまいります。

なお、ゴミの焼却時に発生する熱の有効活用についても検討してまいります。

▼次代を活躍・牽引できる人材の育成

外国語指導助手による指導体制を確立し、全ての小中学校で外国語教育を充実させるとともに、ICT活用教育モデル事業では、個々の生徒・児童に対応した「分かる授業」「魅力的な授業」の実現に向け、中学校のモデル校へ「タブレット

市の最重要課題と捉えた、「人口減少」の抑制に挑戦してまいります。

人口減少の抑制は、今日明日で解決できる簡単なことではありませんが、議員各位、市民の皆さんをはじめ、自治振興区、企業、各種団体や出身者の皆さんなど、「オール庄原」の力を結集し、未来を見据えた粘り強い取り組みが必要不可欠でございます。

この4年間、各地域での行事や市民活動などへ積極的に参加する中で、本市には、自治振興区をはじめ、それぞれの地域や団体などあらゆる分野で頑張る「一人」が大勢おられることを実感するとともに、「自分たちの地域を、さらには庄原市をより良くしていこう」という情熱や姿勢、地域力を肌で感じてまいりました。

こうした市民の皆さんの熱い思いを受け止め、「地域産業」暮らしの安心」に「にぎわいと活力」を柱とした施策を着実に積み重ねることで、必ずや人口減少の抑制につながるものと確信しております。

最後になりますが、金藤選手が体現してくれました、決してあきらめることなく、努力を続けることの大切さや、地域を支える「一人」たちの活動を市政運営の糧として、「美しく輝く里山共生都市」の実現、さらには「やっぱり庄原がいちばんええよのお」と思えるまちづくりに、全身全霊を傾注し、市政を預かる者としての責務を果たしてまいります。

議員各位ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私の施政方針といたします。